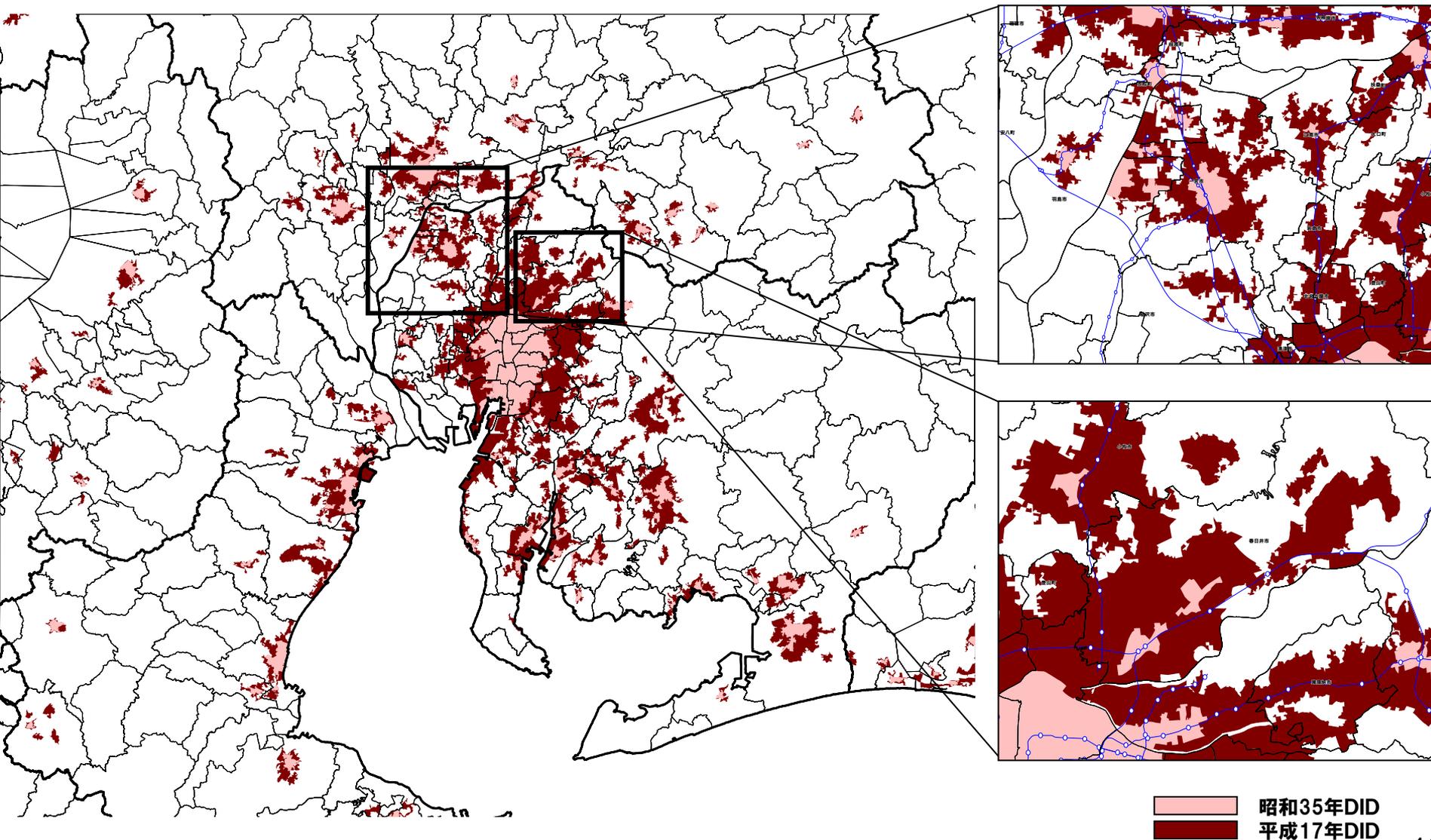
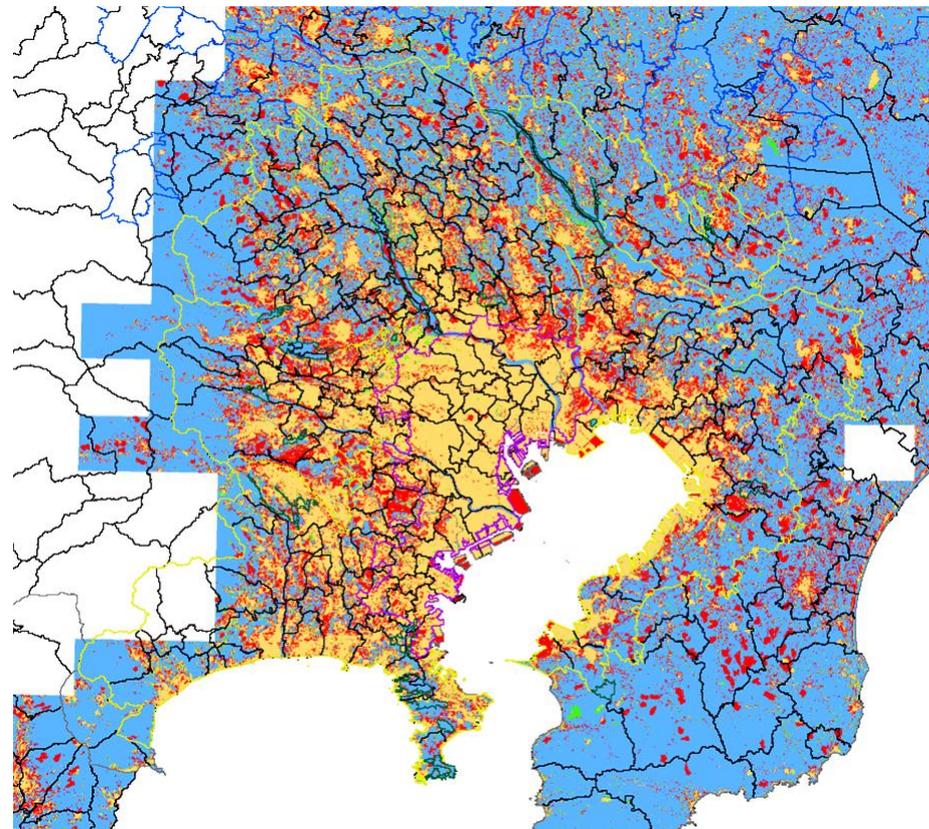


昭和35年から平成17年にかけて市街地の連たん化が大きく進行

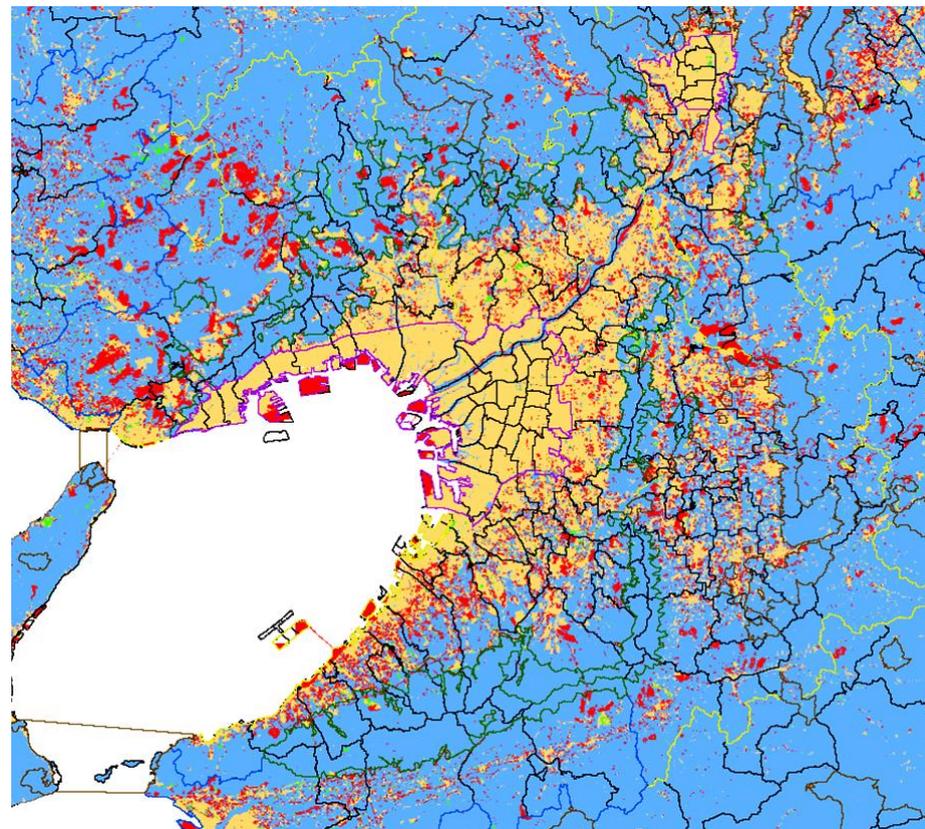


2. 我が国の大都市圏の特性／緑地の減少

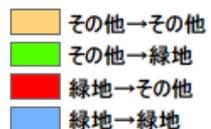
大都市圏の周辺部では都市化の進展等により緑地の減少が顕著
市街地が連担し拡大していることから、緑地の減少は複数都府県にわたるなど広域化



首都圏変遷図
1976年→2006年

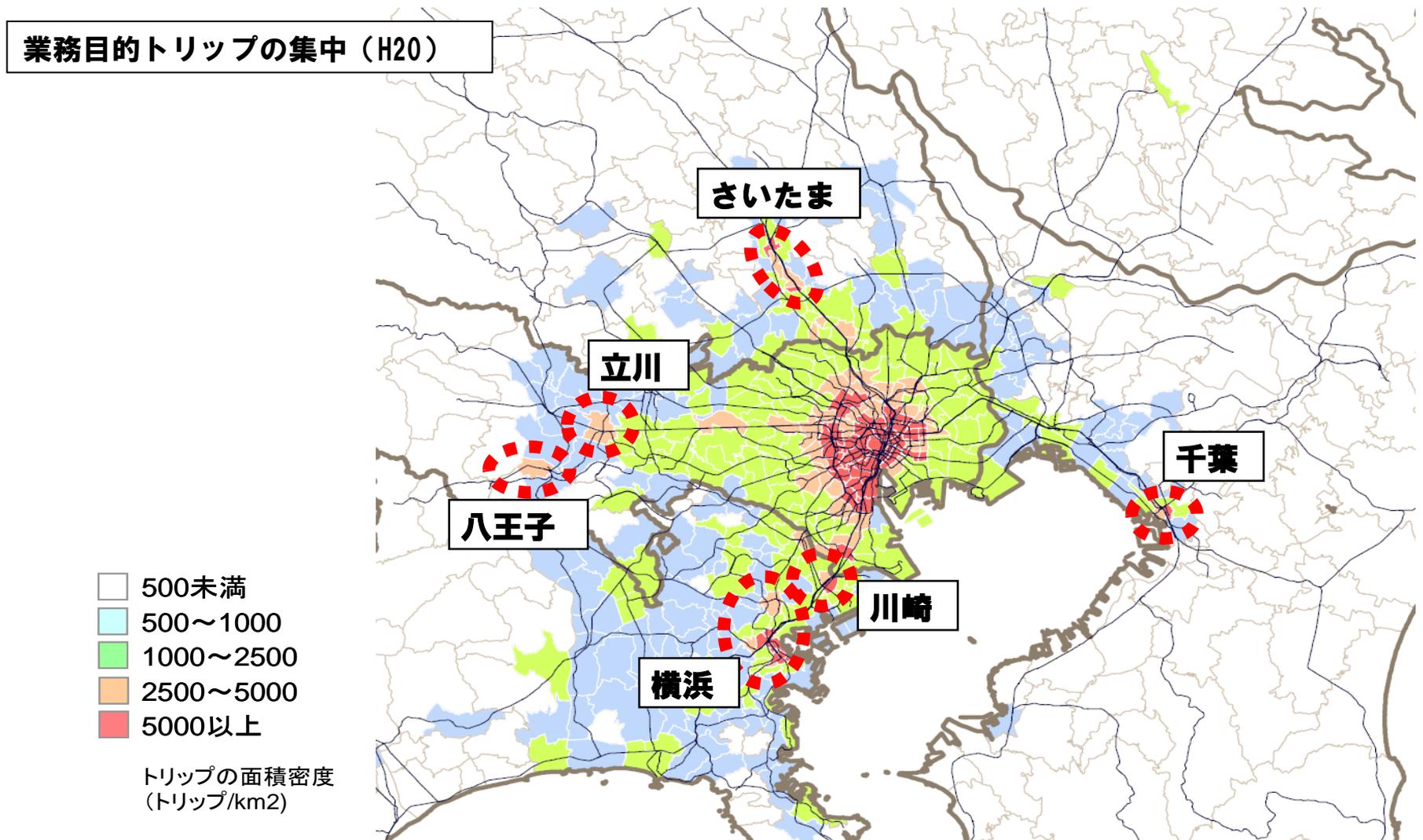


近畿圏変遷図
1976年→1997年



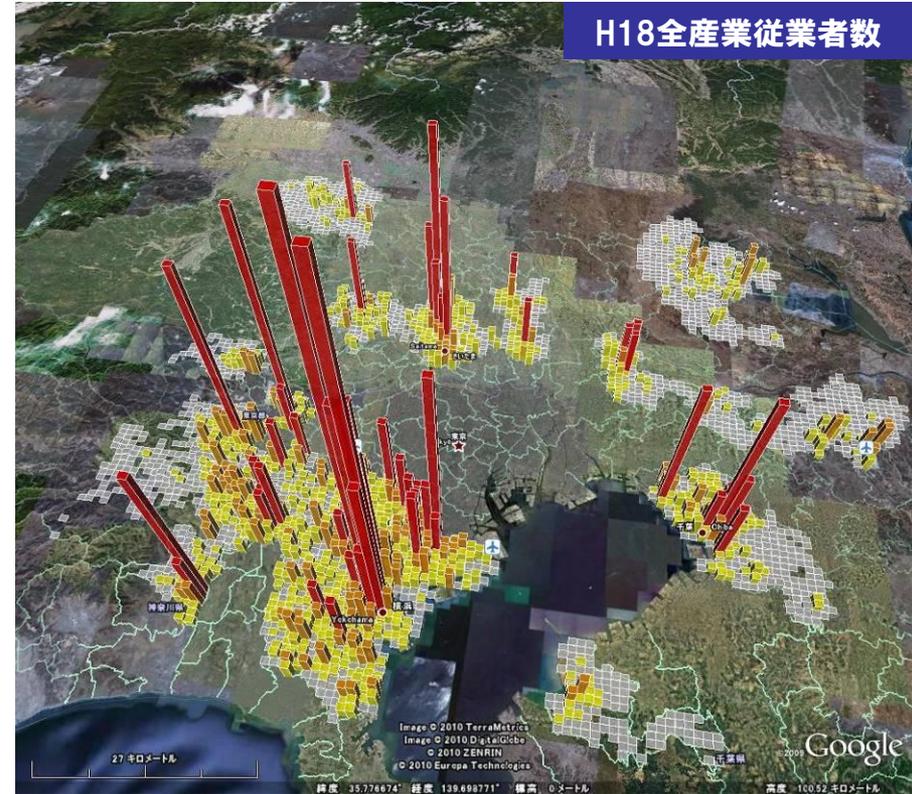
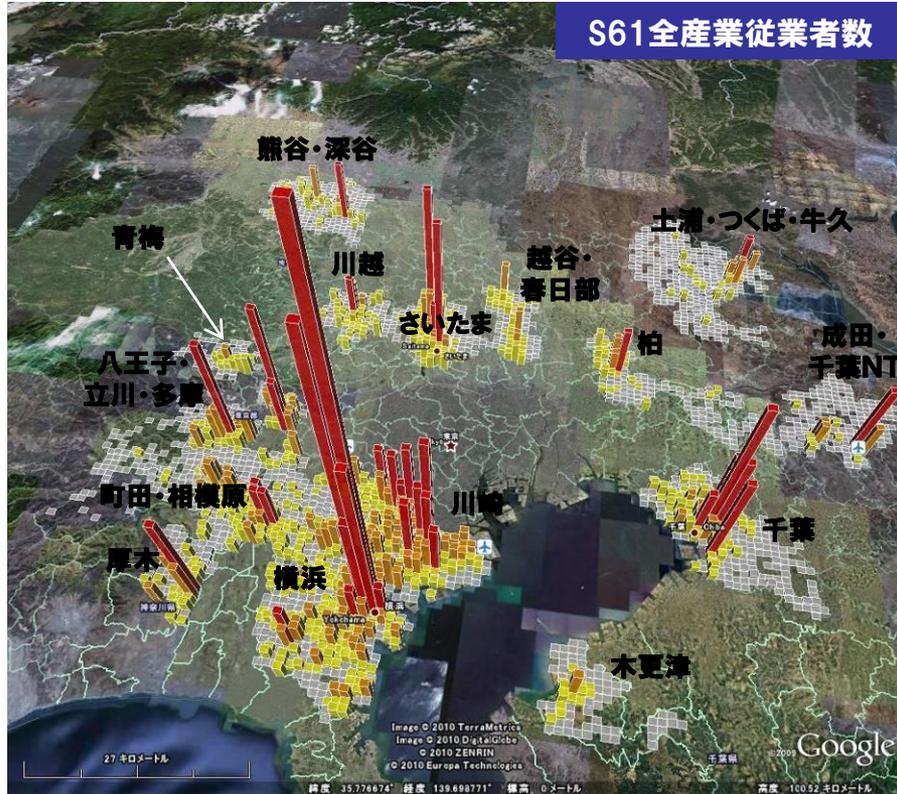
2. 我が国の大都市圏の特性／多極型の圏域構造（首都圏）

横浜、川崎、さいたま、千葉などの業務核都市は、業務目的のトリップが集中しており、拠点都市としての集積が見られる。



[出典] 平成20年東京都市圏パーソントリップ調査結果より国土計画局作成

2. 我が国の大都市圏の特性／業務核都市の集積状況(首都圏)



・ 横浜、川崎、さいたま、千葉などの業務核都市への業務機能の集積が進んでいる。

統計データ凡例		メッシュサイズ 1km	
色	従業者数	高さ	従業者数 1人=1m
		その他	高速道路
		出典	事業所・企業統計

2. 我が国の大都市圏の特性／多核格子の圏域構造（近畿圏）

各都市・地域が個性を活かして「核」となり、更に都市・地域間の連携によって東西南北に格子状の圏域を形成

